

<社会奉仕委員会報告>

2/20(金)柿生中学校にて、救急救命士の講習会が行われ、3年生178名が受講しました。学科を学んだ後、実際にダミー人形を使っての意識、呼吸、心臓の状態確認や心臓マッサージ、人工呼吸を行いました。多摩・宮前警察署の方やボランティアの方の応援もあり、大盛況のうちに終わりました。校長先生からも、ロータリーの支援に対するお礼がありました。事を報告いたします。

IMプログラム

■登録 14:00～14:30

■開会式 14:30～14:55

■基調講演 15:00～16:30

「ユネスコ世界寺子屋運動」を通して「識字率向上」について考える 講師 田代美代子氏

■閉会式 16:40～17:10

■懇親会 17:10～18:30 4階企画展示場

IM開催にあたり

川崎南ロータリークラブ会長 内山秀二

IM実行委員長 小林和雄

本年度清水ガバナーよりIM開催の委嘱を受けた第1・第2・第3グループでは、第1グループの川崎南ロータリークラブが企画し、周りの各グループ内のクラブが最大限の協力をするという事で開催に向けて一丸となり進んでまいりました。

李東建RI会長は「子どもの生存率が向上した内のいくらかは、保健、飢餓、水、それに識字率向上に関する問題など長年にわたり取り組んできたロータリーのプロジェクトが功を奏したのでしょう」と述べられています。今年度のテーマ「夢をかたちに」を、どのようにして実現しようかと考えるとき、私たちは識字率向上に絞りIMを計画致しました。

皆様もご承知のように識字とは文字（書記言語）を読み書きし、理解できることであり所謂、日本では「読み書き」と呼ばれていたものですが、日本では江戸時代の庶民向けの教育機関であった寺子屋の主要な科目でありました。このお陰で日本の識字率は数百年にわたりきわめて高いとされています。また識字率とは一国あるいは、あるまとまった地域における識字者の割合であり、ユネスコでは識字は「日常生活で用いられる簡単で短い文章を理解して読み書きできる15歳以上の成人」としています。

このような訳で日本ではほとんどすべての人々が

読み書き出来ますが、まだまだ世界では識字率の低い地域が数多くあります。子供たちが学習により見識を深めより良い世界を築き上げていくことは大切で必要なことでしょう。そこで今回、「ユネスコ世界寺子屋運動」を通して「識字率向上」について考えると題し、この支援の為活発な活動をされている社団法人日本ユネスコ協会連盟スペシャルアドバイザーとして、皆様にもお馴染みの田代美代子さんに「縁」あつてご講演をお願いし、活動などをお聞きすることになりました。

また皆様のIM参加により、われわれロータリアンが益々その素晴らしさを認識し、この輪を更に広めていけたら幸いと思っています。

